

422) 公衆電話

最近はボックスの公衆電話なんて使うことはほとんどない。しかし交渉毎などの大事な用件があるときには、時々途切れ途切れになる携帯電話よりも、ボックスの公衆電話の方が、神経を集中できる分、使い勝手がいい。先日もそんな交渉毎があったので、久々にボックス電話に飛び込んで、見積りの交渉と相成った。ところが話に夢中になっていて、つい屁などしてみると、これがえらく臭い。それもその筈、電話ボックスには換気扇もなければ、通風などのことは考えていない。狭い気密室の真中で屁をこいたのだからたまらない。仕方なく扉を明けて換気につとめようとしたが、こういうときに限って電話を待っている人がいる。仕方なく扉を閉めたままスカンクの屁に耐えることにしたが、気が散って交渉は見事失敗に終わってしまった。それで、小生のすぐ後に電話ボックスに入った人は、やっぱりよほど臭かったのでしょうか。電話をかけずにすぐに出てきてしまいました。小生の残臭が堪らなかったためでしょうか。すいません。電話ボックスの中で『屁』は禁物であることを記しておく次第であります。